

造成ヨシ帯内植栽区への魚類の来遊・繁殖利用状況

太田 豊三

◆背景・目的

造成ヨシ帯において、植生の多様化を図りその機能をさらに高める方策として、ヤナギの植栽とマコモの植栽を行い、その後の活着・生長状況を経年的に追跡し植栽技術の実用性を検証するとともに、産卵親魚の来遊・産卵状況を調査しその機能向上・付与の検証を行った。

◆成果の内容・特徴

- 魚類の来遊・繁殖利用状況の調査を4月～7月の週1回実施した。
- ・植栽したヤナギ・マコモ等へのコイ科魚類等の産卵有無の確認を行い、ヤナギでは認められなかったが、マコモで植付後2年目でフナ類の産着卵を認めた(産卵状況の写真参照)。
 - ・タツベによる魚類来遊調査：ニゴロブナをはじめギンブナ、コイ、カムルチー、オオクチバス等を確認した(採捕魚の写真参照)。
 - ・マコモ区において、オオクチバス(確認日：5月6日、21、22日、6月2日)とカムルチー(確認日：8月29日、9月2日)の稚魚群を確認し、たも網等で採捕した(採捕・駆除したオオクチバスバス：計12,625尾)。

写真1 マコモ植栽区で観察された産卵状況(4月9日～)



写真2 採捕したカムルチーの稚魚と群泳するオオクチバスの稚魚(マコモ区)

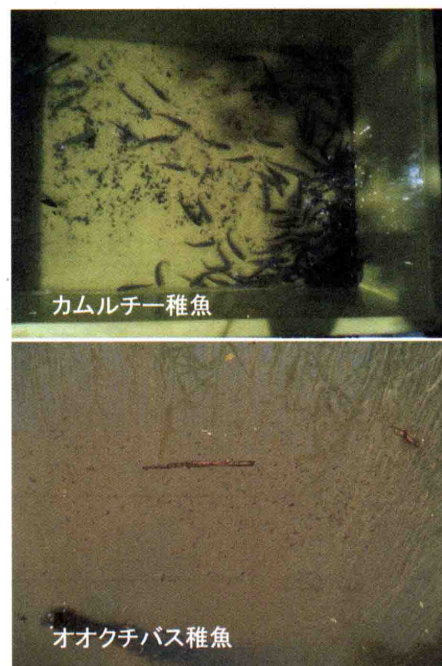


写真3 タツベで採捕されたギンブナ(4月29日)、コイ、カムルチー(5月6日)ルアーで釣られたナマズ(5月6日水路にて)



※本報告は、水産庁による平成20年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である。